

注3

大学番号：公立003

[令和2年度設置]

計画の区分：研究科の専攻（専門職大学院）の設置

注1

届出

東京都立産業技術大学院大学
産業技術研究科 産業技術専攻（専門職学位課程）

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

東京都公立大学法人
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 管理部管理課国際・企画係

職名・氏名

電話番号 03-3472-7840

（夜間） 同上

F A X 03-3472-2790

e-mail info_kokusai@aiit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

産業技術研究科

＜産業技術専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	28

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

東京都公立大学法人

(2) 大学名

東京都立産業技術大学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

(品川シーサイドキャンパス)

〒140-0011

東京都品川区東大井一丁目10番40号

(秋葉原サテライトキャンパス)

〒101-0021

東京都千代田区外神田一丁目18番13号 秋葉原ダイビル12階

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シマダ ハルオ) 島田 晴雄 (令和2年4月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(カワタ セイイチ) 川田 誠一 (令和2年4月)		
研究科長	(ハシモト ヒロシ) 橋本 洋志 (令和2年4月)		
専攻長	(ヨシダ サトシ) 吉田 敏 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
産業技術研究科 産業技術専攻 (専門職学位課程) 情報システム学修士(専門職) 創造技術修士(専門職) 事業設計工学修士(専門職)	工学関係	2年	100人	年次一人	200人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	90人 (-) [-]	10人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	1.06倍	一倍	令和2年度「その他の学期」の入学者向け入試は令和2年5月1日時点で未実施であり、令和2年度内に実施する。
志願者数	150 (-) [14]	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
受験者数	148 (-) [14]	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
合格者数	107 (-) [4]	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
B 入学者数	106 (-) [4]	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
入学定員超過率 B/A	1.06倍		-		-		-		-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	106 [4] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	/	/	/	/	/	/	令和2年度「その他の学期」の入学 向け入試は令和2年5月1日時点で未 実施であり、令和2年度内に実施す る。
2年次	/	/	- [-] (-)	- [-] (-)	/	/	/	/	/	/	
3年次	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
4年次	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
計	106 [4] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	/	/	/	/	/	/	

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	106人	0人	令和2年度	0人	0人	-
令和3年度	-人	-人	令和2年度	-人	-人	-
			令和3年度	-人	-人	-
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合計		0人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{106} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<産業技術研究科 産業技術専攻（専門職学位課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報アーキテクチャコース	ネットワークシステム特別講義	1②	2		1							兼1 兼1
	セキュアシステム管理運用特論	1④	2		1							
	IoT開発特論	1③	2									
	システムプログラミング特論	1②	2		1							
	ネットワーク特論	1①	2						1			
	Javaプログラミング技法	1②	2							1		
	システムソフトウェア特論	1①	2							1		
	情報アーキテクチャ特論1	1①	2			1						
	情報セキュリティ特論	1①	2			1						
	OSS特論	1③	2			1						
	データベース特論	1①	2						1			
	データインテリジェンス特論	1②	2			1						
	ビッグデータ解析特論	1④	2			1						
	クラウドインフラ構築特論	1③	2									兼1
	IT・CIO特論	1④	2			1						
小計(15科目)	—	0	30	0	4	0	0	4	0	0	兼3	
エンタープライズ系科目群	コミュニケーション技術特論	1④	2			1						兼1
	標準化と知財戦略	1①	2									兼1
	情報アーキテクチャ特論2	1②	2									兼1
	情報アーキテクチャ特論3	1①	2				1					兼1
	情報システム特論2	1②	2									兼1
	情報ビジネス特別講義1	1②	2									兼1
	情報ビジネス特別講義3	1④	2									兼1
	サービスサイエンス特論	1①	2			1						
小計(8科目)	—	0	16	0	1	1	0	0	0	0	兼4	
システム開発系科目群	ソフトウェア工学特論	1③	2		1							兼1
	フレームワーク開発特論	1①	2							1		
	セキュアプログラミング特論	1③	2									
	クラウドサーバ構築特論	1③	2		1							
	情報セキュリティ特別講義2	1④	2		1							兼1
	アジャイル開発手法特論	1③	2									
	コラボレイティブ開発特論	1②	2			1						
小計(7科目)	—	0	14	0	2	1	0	1	0	0	兼2	
マネジメント系科目群	プロジェクト管理特論1	1①	2		1							兼1
	プロジェクト管理特論2	1③	2									
	プロジェクト管理特論3	1④	2		1							
	プロジェクト管理特別講義	1②	2		1							
	情報システム特論1	1②	2		1							兼1
	情報ビジネス特別講義2	1②	2									
	情報セキュリティ特別講義1	1③	2		1							
小計(7科目)	—	0	14	0	3	0	0	0	0	0	兼2	
情報システム学特別演習	情報システム学特別演習1	2①・②	6			5	1			4		
	情報システム学特別演習2	2③・④	6			5	1			4		
	小計(2科目)	—	12	0	0	5	1	0	4	0		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報アーキテクチャコース	ネットワークシステム特別講義	1②	2		1							兼1
	セキュアシステム管理運用特論	1④	2		1							
	IoT開発特論	1④	2						1			
	システムプログラミング特論	1②	2		1							
	ネットワーク特論	1①	2							1		
	Javaプログラミング技法	1①	2							1		
	システムソフトウェア特論	1①	2							1		
	情報アーキテクチャ特論1	1①	2			1						
	情報セキュリティ特論	1①	2			1						
	OSS特論	1③	2			1						
	データベース特論	1①	2						1			
	データインテリジェンス特論	1③	2			1						
	ビッグデータ解析特論	1④	2			1						
	クラウドインフラ構築特論	1③	2									兼1
	IT・CIO特論	1③	2						7		2	
小計(15科目)	—	0	30	0	7	0	0	4	0	0	兼3	
エンタープライズ系科目群	コミュニケーション技術特論	1④	2			1						兼1
	標準化と知財戦略	1②	2									兼1
	情報アーキテクチャ特論2	1②	2									兼1
	情報アーキテクチャ特論3	1①	2				1					兼2
	情報システム特論2	1④	2									兼1
	情報ビジネス特別講義1	1③	2									兼1
	情報ビジネス特別講義3	1④	2									兼1
	サービスサイエンス特論	1①	2			1						
小計(8科目)	—	0	16	0	2	0	0	0	0	0	兼5	
システム開発系科目群	ソフトウェア工学特論	1②	2		1							兼1
	フレームワーク開発特論	1①	2								1	
	セキュアプログラミング特論	1③	2									
	クラウドサーバ構築特論	1③	2		1							
	情報セキュリティ特別講義2	1④	2		1							兼1
	アジャイル開発手法特論	1③	2									
	コラボレイティブ開発特論	1②	2			1						
小計(7科目)	—	0	14	0	3	0	0	1	0	0	兼2	
マネジメント系科目群	プロジェクト管理特論1	1①	2		1							兼1
	プロジェクト管理特論2	1③	2									
	プロジェクト管理特論3	1④	2		1							
	プロジェクト管理特別講義	1②	2		1							
	情報システム特論1	1④	2		1							兼1
	情報ビジネス特別講義2	1③	2									
	情報セキュリティ特別講義1	1②	2		1							
小計(7科目)	—	0	14	0	3	0	0	0	0	0	兼2	
情報システム学特別演習	情報システム学特別演習1	2①・②	6			5	1			4		
	情報システム学特別演習2	2③・④	6			5	1			4		
	小計(2科目)	—	12	0	0	5	1	0	4	0		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
創造技術コース	基礎科目群	グローバルコミュニケーション特論	1②	2		1						兼1
		人間中心デザイン特論	1②	2		1						
		デザインマネジメント特論	1①	2								
		インテリジェントシステム特論	1①	2			1					
		小計(4科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	
	プロダクト・イノベーション科目群	設計工学特論	1①	2		1						兼1
		プロトタイピング工学特論	1①	2								
		システムインテグレーション特論	1③	2		1						
		サービス工学特論	1④	2		1						
		品質工学特論	1④	2		1						
		信頼性工学特論	1③	2		1						
		創造設計特論	1②	2		1						
		チーム設計・試作特別演習	1④	2		1						
	小計(8科目)	—	0	16	0	3	0	0	0	0	兼1	
デザイン・イノベーション科目群	プロダクトデザイン特論	1①	2			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼3	
	価値デザイン特論	1②	2					1				
	コミュニケーションデザイン特論	1②	2						1			
	工業デザイン材料特論	1③	2			1						
	デジタルデザイン実習	1④	1									
	デザイン表現実習	1①	1									
	造形デザイン特別演習	1②	2			1						
	プロダクトデザイン特別演習	1③	2									
小計(8科目)	—	0	14	0	0	1	0	1	0	兼3		
デジタル技術科目群	組込みシステム特論	1②	2		1						兼1	
	システムモデリング特論	1④	2		1							
	ET(Embedded Technology)特別演習	1③	2		1							
	機械学習特論	1③	2			1						
	AIデザイン特論	1④	2		1							
	データサイエンス特論	1①	2		1			1				
	データサイエンス特別演習	1②	2									
小計(7科目)	—	0	14	0	2	1	0	1	0	兼1		
サイバネティクス特別演習	イノベーションデザイン特別演習1	2①・②	6			6	2		3		兼1	
	イノベーションデザイン特別演習2	2③・④	6			6	2		3			
	小計(2科目)	—	12	0	0	6	2	0	3	0		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
事業設計工学コース	事業設計工学基礎科目群	事業設計工学概論	1①	2		4	2		3			兼1
		スタートアップ戦略特論	1②	2		1						
		会計・ファイナンス工学特論	1②	2		1						
		エマージング・イノベーション特論	1①	2		1						
		サービスサイエンス特論	1①	2		1						
	小計(5科目)	—	0	10	0	4	2	0	3	0		
	ビジネスシステム科目群	マネジメントシステム基礎特論	1①	2		1						兼1
		マネジメントシステム応用特論	1③	2		1						
		統計・数理計量ファイナンス特別演習	1②	2		1						
		地域経済分析特別演習	1③	2		1						
		リーダーシップ特論	1②	2		1						
	小計(5科目)	—	0	10	0	3	0	0	0	0		
	事業設計工学イノベーション科目群	製品開発組織特論	1②	2		1						兼1
		技術経営戦略特論	1④	2		1						
エマージング・テクノロジー特論		1②	2			1						
事業方向性設計特論		1③	2			1						
事業方向性設計演習		1④	2			1						
小計(5科目)	—	0	10	0	1	1	0	0	0			
サービスイノベーション科目群	ネットワーク事業設計特論	1②	2			1					兼1	
	意思決定サイエンス特論	1③	2			1						
	イノベティブサービス技術特論	1④	2			1						
	市場創造技術特論	1②	2			1						

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
創造技術コース	基礎科目群	グローバルコミュニケーション特論	1②	2		1						兼1
		人間中心デザイン特論	1②	2		1						
		デザインマネジメント特論	1②	2								
		インテリジェントシステム特論	1①	2			1					
		小計(4科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	
	プロダクト・イノベーション科目群	設計工学特論	1①	2		1						兼1
		プロトタイピング工学特論	1①	2					1			
		システムインテグレーション特論	1③	2		1						
		サービス工学特論	1④	2		1						
		品質工学特論	1④	2		1						
		信頼性工学特論	1③	2		1						
		創造設計特論	1②	2		1						
		チーム設計・試作特別演習	1④	2		1						
	小計(8科目)	—	0	16	0	3	1	0	0	0	兼1	
デザイン・イノベーション科目群	プロダクトデザイン特論	1①	2			1					兼1 兼1 兼1 兼2 兼1 兼2 兼4	
	価値デザイン特論	1②	2									
	コミュニケーションデザイン特論	1③	2					1				
	工業デザイン材料特論	1③	2			1						
	デジタルデザイン実習	1④	1									
	デザイン表現実習	1④	1									
	造形デザイン特別演習	1②	2			1						
	プロダクトデザイン特別演習	1③	2									
小計(8科目)	—	0	14	0	0	1	0	1	0	兼4		
デジタル技術科目群	組込みシステム特論	1②	2		1						兼3	
	システムモデリング特論	1④	2		1							
	ET(Embedded Technology)特別演習	1③	2		1							
	機械学習特論	1③	2			1						
	AIデザイン特論	1④	2		1							
	データサイエンス特論	1①	2		1				1			
	データサイエンス特別演習	1②	2									
小計(7科目)	—	0	14	0	2	1	0	1	0	兼3		
サイバネティクス特別演習	イノベーションデザイン特別演習1	2①・②	6			5	2		3		兼3	
	イノベーションデザイン特別演習2	2③・④	6			5	2		3			
	小計(2科目)	—	12	0	0	5	2	0	3	0		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
事業設計工学コース	事業設計工学基礎科目群	事業設計工学概論	1①	2		4	2		3			兼1
		スタートアップ戦略特論	1④	2		1						
		会計・ファイナンス工学特論	1①	2		1						
		エマージング・イノベーション特論	1①	2		1						
		サービスサイエンス特論	1①	2		1						
	小計(5科目)	—	0	10	0	4	2	0	3	0		
	ビジネスシステム科目群	マネジメントシステム基礎特論	1①	2		1						兼1
		マネジメントシステム応用特論	1③	2		1						
		統計・数理計量ファイナンス特別演習	1③	2		1						
		地域経済分析特別演習	1④	2		1						
		リーダーシップ特論	1②	2		1						
	小計(5科目)	—	0	10	0	3	0	0	0	0		
	事業設計工学イノベーション科目群	製品開発組織特論	1②	2		1						兼1
		技術経営戦略特論	1④	2		1						
エマージング・テクノロジー特論		1②	2			1						
事業方向性設計特論		1①	2			1						
事業方向性設計演習		1③	2			1						
小計(5科目)	—	0	10	0	1	1	0	0	0			
サービスイノベーション科目群	ネットワーク事業設計特論	1③	2			1					兼1	
	意思決定サイエンス特論	1②	2			1						
	イノベティブサービス技術特論	1④	2			1						
	市場創造技術特論	1②	2			1						

ノン 科	事業継続戦略特論	1④		2		1													
	小計(5科目)	—	0	10	0	1	1	0	0	0	0								
事業 設計 工学 特 別 演 習 工 学 特	事業設計工学特別演習1	2①・②	6			4	2		3										
	事業設計工学特別演習2	2③・④	6			4	2		3										
	小計(2科目)	—	12	0	0	4	2	0	3	0									
全 コ ー ス 共 通	国際経営特論	1④		2		1													
	国際開発特論	1③		2		1													
	Technical Writing in English	1③		2															
	DESIGN[RE]THINKING	1④		2					1										
	小計(4科目)	—	0	8	0	1	0	0	1	0									
産 業 技 術 研 究 科 目 群	情報技術者倫理	1④	2																
	技術倫理	1②	2																
	小計(2科目)	—	4	0	0	0	0	0	0	0									
選 択 必 修 科 目 群	合計(96科目)	—	16	174	0	15	5		10										兼18
卒業要件及び履修方法																			
<情報アーキテクチャコース、創造技術コース> (1)修得単位数40単位以上 ※他コースで履修した科目のうち、合計8単位まで修了要件に認める。 (2)選択必修科目群から1科目の選択を必修とする。 <事業設計工学コース> (1)修得単位数40単位以上 ※他コースで履修した科目のうち、産業技術研究科科目群と選択必修科目群を除いて合計10単位まで修了要件に認める。 (2)選択必修科目群から1科目の選択を必修とする。																			

ノン 科	事業継続戦略特論	1④		2		1													
	小計(5科目)	—	0	10	0	1	1	0	0	0									
事業 設計 工学 特 別 演 習 工 学 特	事業設計工学特別演習1	2①・②	6			4	2		3										
	事業設計工学特別演習2	2③・④	6			4	2		3										
	小計(2科目)	—	12	0	0	4	2	0	3	0									
全 コ ー ス 共 通	国際経営特論	1④		2		1													
	国際開発特論	1③		2		1													
	Technical Writing in English	1③		2					1										
	DESIGN[RE]THINKING	1④		2										1					
	小計(4科目)	—	0	8	0	2	0	0	1	0									
産 業 技 術 研 究 科 目 群	情報技術者倫理	1④	2																
	技術倫理	1①	2																
	小計(2科目)	—	4	0	0	0	0	0	0	0									
選 択 必 修 科 目 群	合計(96科目)	—	16	174	0	16	4		10										兼21
卒業要件及び履修方法																			
<情報アーキテクチャコース、創造技術コース> (1)修得単位数40単位以上 ※他コースで履修した科目のうち、合計8単位まで修了要件に認める。 (2)選択必修科目群のうち1科目を必修とする。 <事業設計工学コース> (1)修得単位数40単位以上 ※他コースで履修した科目のうち、産業技術研究科科目群と選択必修科目群を除いて合計10単位まで修了要件に認める。 (2)選択必修科目群のうち1科目を必修とする。																			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨】」による授業科目には「【臨】」、「【連】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・IoT開発特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1③」から「1④」に、教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。
- ・Javaプログラミング技法：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1①」に変更。
- ・データインテリジェンス特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1③」に変更。
- ・IT・CIO特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1④」から「1③」に、教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「教授1」から「教授7/助教2」に変更。
- ・コミュニケーション技術特論：昇任のため、専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・情報アーキテクチャ特論3：昇任のため、専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・コラボレイティブ開発特論：昇任のため、専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・標準化と知財戦略：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1①」から「1②」に変更。
- ・情報システム特論2：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1④」に、教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・情報ビジネス特別講義1：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1③」に変更。
- ・ソフトウェア工学特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1③」から「1②」に変更。
- ・情報システム特論1：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1④」に変更。
- ・情報ビジネス特別講義2：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1③」に変更。
- ・情報セキュリティ特別講義1：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1③」から「1②」に変更。
- ・情報システム学特別演習1：昇任及び担当授業科目変更のため、専任教員等の配置を「教授5/准教授1/助教4」から「教授7/准教授0/助教4」に変更。
- ・情報システム学特別演習2：昇任及び担当授業科目変更のため、専任教員等の配置を「教授5/准教授1/助教4」から「教授7/准教授0/助教4」に変更。
- ・デザインマネジメント特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1①」から「1②」に変更。
- ・プロトタイプ工学特論：教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「准教授1/兼任・兼任1」に変更。
- ・コミュニケーションデザイン特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1③」に変更。
- ・デザイン表現実習：新型コロナウイルス感染症対応のため、配当年次を「1①」から「1④」に、教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・造形デザイン特別演習：教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1/兼任・兼任1」に変更。
- ・データサイエンス特別演習：教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・イノベーションデザイン特別演習1：担当授業科目変更のため、専任教員等の配置を「教授6/准教授2/助教3」から「教授5/准教授2/助教3」に変更。
- ・イノベーションデザイン特別演習2：担当授業科目変更のため、専任教員等の配置を「教授6/准教授2/助教3」から「教授5/准教授2/助教3」に変更。
- ・スタートアップ戦略特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1④」に変更。
- ・会計・ファイナンス工学特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1①」に変更。
- ・統計・数理計量ファイナンス特別演習：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1③」に変更。
- ・地域経済分析特別演習：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1③」から「1④」に変更。
- ・事業方向性設計特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1③」から「1①」に変更。
- ・事業方向性設計演習：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1④」から「1③」に変更。
- ・ネットワーク事業設計特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1③」に変更。
- ・意思決定サイエンス特論：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1③」から「1②」に変更。
- ・Technical Writing in English：教育内容の充実のため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。
- ・技術倫理：各クォータ間における開講科目数調整のため、配当年次を「1②」から「1①」に変更。
- ・卒業要件及び履修方法：文言修正のため、「選択必修科目群から1科目の選択を必修とする。」から「選択必修科目群のうち1科目を必修とする。」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	88 科目	0 科目	96 科目	8 科目 [0]	88 科目 [0]	0 科目 [0]	96 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{96} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	産業技術高等専門学校 品川キャンパス（法令 上の必要校地等面積 8,320㎡）と共用				
	校 舎 敷 地	0㎡	14,555㎡	5,799㎡	20,354㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	0㎡	16,561㎡	16,561㎡					
	小 計	0㎡	14,555㎡	22,360㎡	36,915㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	合 計	0㎡	14,555㎡	22,360㎡	36,915㎡					
(2) 校 舎	専 用	2,697㎡	2,372㎡	28,828㎡	33,897㎡	産業技術高等専門学校 品川キャンパス（法令 上の必要校舎面積 5289.26㎡）と共用				
	(- ㎡)	(- ㎡)	(- ㎡)	(- ㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	6室	演 習 室	11室	実験実習室	3室	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	0室
					(補助職員 - 人)		(補助職員 - 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数					
	産業技術研究科 産業技術専攻				22 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	新規購入、更新及び除 却処分に伴う変更 (2)		
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル						
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点				
	産業技術研究科 産業技術専攻	28,246 [6,705] (24,601 [5,925]) (25,871 [6,141])	59 [21] (57 [19]) (54 [19])	12 [8] (12 [8]) (11 [7])	226 (207)	955 (940) (894)	0 (0)			
計	28,246 [6,705] (24,601 [5,925]) (25,871 [6,141])	59 [21] (57 [19]) (54 [19])	12 [8] (12 [8]) (11 [7])	226 (207)	955 (940) (894)	0 (0)				
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		産業技術高等専門学校 品川キャンパス分 120,000冊				
	1050㎡	89席		47,000冊						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	㎡									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設年度	開設年度	完成年度	電子ジャーナル、データベース等 購入費を含む 予算等の確定に伴う変更 (2)	
		教員1人当り研究費等	1,276千円 1,280千円	1,280千円	図書購入費	6,395千円	6,477千円 6,395千円	6,395千円		
		共同研究費等	10,750千円 15,157千円	15,157千円	設備購入費	42,908千円	38,839千円 42,908千円	42,908千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	都内からの学生 都外からの学生		
		662千円	521千円	千円	千円	千円	千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東京都立大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人文社会学部											
人間社会学科	4	110	-	440	学士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)(心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)	1.11	1.04		平成30年度	東京都八王子市南大沢一丁目1番	
人文学科	4	90	-	360	学士(文学)(史学)	1.09	1.07		平成30年度	同上	
法学部											
法学科	4	200	-	800	学士(法学)	1.09	1.06		平成30年度	同上	
経済経営学部											
経済経営学科	4	200	-	800	学士(経済学)(経営学)	1.06	1.05		平成30年度	同上	
理学部											
数理科学科	4	45	-	180	学士(理学)	1.05	1.02		平成30年度	同上	
物理学科	4	47	-	188	学士(理学)	1.06	1.04		平成30年度	同上	
化学科	4	48	-	192	学士(理学)	1.03	1.02		平成30年度	同上	
生命科学科	4	60	-	240	学士(理学)	1.03	1.03		平成30年度	同上	
都市環境学部											
地理環境学科	4	30	-	120	学士(理学)	0.99	1.03		平成30年度	同上	
都市基盤環境学科	4	50	-	200	学士(工学)	1.04	1.04		平成30年度	同上	
建築学科	4	50	-	200	学士(工学)	1.04	1.10		平成30年度	同上	
環境応用化学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.03	1.01		平成30年度	同上	
観光科学科	4	30	-	120	学士(観光科学)	1.03	1.00		平成30年度	同上	
都市政策科学科	4	35	-	140	学士(都市政策科学)	1.04	1.05		平成30年度	同上	
都市環境学科	4	-	-	-	学士(理学)(工学)	-	-		平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
システムデザイン学部											
情報科学科	4	50	-	200	学士(工学)(情報科学)	1.05	1.04		平成30年度	東京都日野市旭が丘六丁目6番	
電子情報システム工学科	4	85	3年次4人	348	学士(工学)	1.00	1.01		平成30年度	同上	
機械システム工学科	4	90	3年次4人	368	学士(工学)	0.99	0.98		平成30年度	同上	
航空宇宙システム工学科	4	45	-	180	学士(工学)	1.04	1.06		平成30年度	同上	
インダストリアルアート学科	4	50	-	200	学士(芸術工学)	1.02	1.02		平成30年度	同上	
システムデザイン学科	4	-	-	-	学士(工学)(芸術工学)	-	-		平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
健康福祉学部											
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.04	1.03		平成17年度	東京都荒川区東尾久七丁目2番10号	
理学療法学科	4	35	-	140	学士(理学療法)	1.00	1.02		平成17年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法)	1.05	1.02		平成17年度	同上	
放射線学科	4	40	-	160	学士(放射線)	1.00	0.97		平成17年度	同上	
都市教養学部											
都市教養学科	4	-	-	-	学士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)(心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)(文学)(史学)(法学)(経営学)(経済学)(理学)(工学)	-	-		平成17年度	東京都八王子市南大沢一丁目1番	平成30年度より学生募集停止
人文科学研究科											
社会行動学専攻(M)	2	14	-	28	修士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)	1.26	1.00		平成30年度	同上	
社会行動学専攻(D)	3	10	-	30	博士(社会学)(社会人類学)(社会福祉学)	0.66	0.30		平成30年度	同上	

人間科学専攻(M)	2	17	-	34	修士(心理学)(臨床心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)	1.31	1.17	平成30年度	同上	
人間科学専攻(D)	3	6	-	18	博士(心理学)(教育学)(言語学)(日本語教育学)	1.49	1.50	平成30年度	同上	
文化基礎論専攻(M)	2	13	-	26	修士(文学)(史学)(考古学)	0.28	0.46	平成30年度	同上	
文化基礎論専攻(D)	3	5	-	15	博士(文学)(史学)(考古学)	0.46	0.20	平成30年度	同上	
文化関係論専攻(M)	2	5	-	10	修士(文学)	1.20	1.60	平成30年度	同上	
文化関係論専攻(D)	3	4	-	12	博士(文学)	0.50	0.00	平成30年度	同上	
法学政治学研究科										
法学政治学専攻(M)	2	6	-	12	修士(法学)(政治学)	0.77	1.16	平成30年度	同上	
法学政治学専攻(D)	3	4	-	12	博士(法学)(政治学)	0.50	0.25	平成30年度	同上	
法曹養成専攻(P)	3	40	-	156	法務博士(専門職)	0.78	0.92	平成30年度	東京都中央区晴海一丁目2番2号	
経営学研究科										
経営学専攻(M)	2	50	-	100	修士(経営学)(経済学)(ファイナンス)	0.81	0.92	平成30年度	東京都八王子市南大沢一丁目1番	
経営学専攻(D)	3	5	-	15	博士(経営学)(経済学)	1.33	1.40	平成30年度	同上	
理学研究科										
数理科学専攻(M)	2	25	-	50	修士(理学)	1.05	1.00	平成30年度	同上	
数理科学専攻(D)	3	8	-	24	博士(理学)	0.70	0.75	平成30年度	同上	
物理学専攻(M)	2	35	-	70	修士(理学)	0.99	1.08	平成30年度	同上	
物理学専攻(D)	3	10	-	30	博士(理学)	0.76	1.10	平成30年度	同上	
化学専攻(M)	2	35	-	70	修士(理学)	1.01	1.02	平成30年度	同上	
化学専攻(D)	3	9	-	27	博士(理学)	0.58	0.33	平成30年度	同上	
生命科学専攻(M)	2	40	-	80	修士(理学)	0.93	0.67	平成30年度	同上	
生命科学専攻(D)	3	16	-	48	博士(理学)	0.87	0.93	平成30年度	同上	
都市環境科学研究科										
都市環境科学専攻(M)	2	165	-	330	修士(理学)(地理学)(工学)(建築学)(観光科学)(都市科学)(都市政策科学)	1.01	1.01	平成21年度	同上	
都市環境科学専攻(D)	3	29	-	87	博士(理学)(地理学)(工学)(建築学)(観光科学)(都市科学)(都市政策科学)	0.84	0.55	平成21年度	同上	
システムデザイン研究科										
システムデザイン専攻(M)	2	215	-	430	修士(工学)(情報科学)(芸術工学)(学術)	1.23	1.21	平成18年度	東京都日野市旭が丘六丁目6番	
システムデザイン専攻(D)	3	26	-	78	博士(工学)(情報科学)(芸術工学)(学術)	1.30	1.03	平成18年度	同上	
人間健康科学研究科										
人間健康科学専攻(M)	2	70	-	140	修士(看護学)(理学療法学)(作業療法学)(放射線学)(健康科学)(学術)	0.97	1.04	平成18年度	東京都荒川区東尾久七丁目2番11号	
人間健康科学専攻(D)	3	25	-	75	博士(看護学)(理学療法学)(作業療法学)(放射線学)(健康科学)(学術)	1.00	0.92	平成18年度	同上	
社会科学研究科										
法学政治学専攻(M)	2	-	-	-	修士(法学)(政治学)	-	-	平成17年度	東京都八王子市南大沢一丁目1番	平成30年度より学生募集停止
法学政治学専攻(D)	3	-	-	-	博士(法学)(政治学)	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
経営学専攻(M)	2	-	-	-	修士(経営学)(経済学)(ファイナンス)	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
経営学専攻(D)	3	-	-	-	博士(経営学)(経済学)	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
法曹養成専攻	3	-	-	-	法務博士(専門職)	-	-	平成17年度	東京都中央区晴海一丁目2番2号	平成30年度より学生募集停止
理工学研究科										
数理情報科学専攻(M)	2	-	-	-	修士(理学)	-	-	平成17年度	東京都八王子市南大沢一丁目1番	平成30年度より学生募集停止
数理情報科学専攻(D)	3	-	-	-	博士(理学)	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
物理学専攻(M)	2	-	-	-	修士(理学)	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止

物理学専攻(D)	3	-	-	-	博士(理学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
分子物質化学専攻(M)	2	-	-	-	修士(理学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
分子物質化学専攻(D)	3	-	-	-	博士(理学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
生命科学専攻(M)	2	-	-	-	修士(理学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
生命科学専攻(D)	3	-	-	-	博士(理学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
電気電子工学専攻(M)	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
電気電子工学専攻(D)	3	-	-	-	博士(工学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
機械工学専攻(M)	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
機械工学専攻(D)	3	-	-	-	博士(工学)	-	-	-	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止

大学の名称	東京都立産業技術大学院大学										備考
-------	---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍		年度	年度	年度	
産業技術研究科											
産業技術専攻(P)	2	100	-	200	情報システム学修士(専門職) 創造技術修士(専門職) 事業設計工学修士(専門職)	1.06	1.06	-	令和2年度	東京都品川区東大井一丁目10番40号	
情報アーキテクチャ専攻(P)	2	-	-	-	情報システム学修士(専門職)	-	-	-	平成18年度	同上	令和2年度より学生募集停止
創造技術専攻(P)	2	-	-	-	創造技術修士(専門職)	-	-	-	平成20年度	同上	令和2年度より学生募集停止

大学の名称	東京都立産業技術高等専門学校										備考
-------	----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍		年度	年度	年度	
ものづくり工学科	5	320	-	1600	準学士	1.02	0.98	-	平成18年度	東京都品川区東大井一丁目10番40号 東京都荒川区南千住八丁目17番1号	品川キャンパス 荒川キャンパス
創造工学専攻	2	32	-	64	※	1.08	1.13	-	平成18年度	同上	※特例適用専攻科

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<産業技術研究科 産業技術専攻（専門職学位課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	池本 浩幸 <令和2年4月> 博士(工学) ・設計工学特論 ・人間中心デザイン特論 ・チーム設計・試作特別演習 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	板倉 宏昭 <令和2年4月> 博士(学術) ・事業設計工学概論※ ・スタートアップ戦略特論 ・マネジメントシステム基礎特論 ・マネジメントシステム応用特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
専	教授	追川 修一 <令和2年4月> 博士(工学) ・情報アーキテクチャ特論1 ・データインテリジェンス特論 ・ビッグデータ解析特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
実専	教授	奥原 雅之 <令和2年4月> 工学修士 ・情報セキュリティ特論 ・情報セキュリティ特別講義1 ・情報セキュリティ特別講義2 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	教授	越水 重臣 <令和2年4月> 博士(工学) ・創造設計特論 ・信頼性工学特論 ・品質工学特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	小山 裕司 <令和2年4月> 修士※(工学) ・IT・CIO特論 ・システムプログラミング特論 ・OSS特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	池本 浩幸 <令和2年4月> 博士(工学) ・設計工学特論 ・人間中心デザイン特論 ・チーム設計・試作特別演習 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	板倉 宏昭 <令和2年4月> 博士(学術) ・事業設計工学概論※ ・スタートアップ戦略特論 ・マネジメントシステム基礎特論 ・マネジメントシステム応用特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
専	教授	追川 修一 <令和2年4月> 博士(工学) ・データインテリジェンス特論 ・ビッグデータ解析特論 ・IT・CIO特論 ・ソフトウェア工学特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
実専	教授	奥原 雅之 <令和2年4月> 工学修士 ・情報セキュリティ特論 ・IT・CIO特論 ・情報セキュリティ特別講義1 ・情報セキュリティ特別講義2 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	教授	越水 重臣 <令和2年4月> 博士(工学) ・創造設計特論 ・信頼性工学特論 ・品質工学特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	小山 裕司 <令和2年4月> 修士※(工学) ・IT・CIO特論 ・システムプログラミング特論 ・OSS特論 ・情報アーキテクチャ特論1 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	嶋津 恵子 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(政策・メディア)・博士(システムエンジニアリング)
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム特論1 ・リーダーシップ特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
実専	教授	飛田 博章 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア工学特論 ・ネットワークシステム特別講義 ・クラウドサーバ構築特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	教授	橋本 洋志 [REDACTED] <令和2年4月> 工学博士
		<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス特論 ・システムインテグレーション特論 ・サービス工学特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	教授	前田 充浩 [REDACTED] <令和2年4月> 法学士
		<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルコミュニケーション特論 ・国際経営特論 ・国際開発特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	松尾 徳朗 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・サービスサイエンス特論 ・市場創造技術特論 ・事業継続戦略特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
実専	教授	三好 きよみ [REDACTED] <令和2年4月> 博士(システム・マネジメント)
		<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト管理特論1 ・プロジェクト管理特論3 ・プロジェクト管理特別講義 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	三好 祐輔 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(経済学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・会計・ファイナンス工学特論 ・統計・数理計量ファイナンス特別演習 ・地域経済分析特別演習 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	嶋津 恵子 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(政策・メディア)・博士(システムエンジニアリング)
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム特論1 ・リーダーシップ特論 ・IT・CIO特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2 ・Technical Writing in English
実専	教授	飛田 博章 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークシステム特別講義 ・クラウドサーバ構築特論 ・IoT開発特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	教授	橋本 洋志 [REDACTED] <令和2年4月> 工学博士
		<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス特論 ・システムインテグレーション特論 ・サービス工学特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	教授	前田 充浩 [REDACTED] <令和2年4月> 法学士
		<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルコミュニケーション特論 ・国際経営特論 ・国際開発特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	松尾 徳朗 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・サービスサイエンス特論 ・市場創造技術特論 ・事業継続戦略特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
実専	教授	三好 きよみ [REDACTED] <令和2年4月> 博士(システム・マネジメント)
		<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト管理特論1 ・プロジェクト管理特論3 ・プロジェクト管理特別講義 ・IT・CIO特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	教授	三好 祐輔 [REDACTED] <令和2年4月> 博士(経済学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・会計・ファイナンス工学特論 ・統計・数理計量ファイナンス特別演習 ・地域経済分析特別演習 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	村越 英樹 ■ ＜令和2年4月＞ 工学博士
		<ul style="list-style-type: none"> ・組込みシステム特論 ・ET(Embedded Technology)特別演習 ・システムモデリング特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	教授	吉田 敏 ■ ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・エマージング・イノベーション特論 ・製品開発組織特論 ・技術経営戦略特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
実専	准教授	内山 純 ■ ＜令和2年4月＞ 工学修士
		<ul style="list-style-type: none"> ・造形デザイン特別演習 ・プロダクトデザイン特論 ・工業デザイン材料特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	准教授	中鉢 欣秀 ■ ＜令和2年4月＞ 博士(政策・メディア)
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術特論 ・情報アーキテクチャ特論3 ・コラボレイティブ開発特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
実専	准教授	林 久志 ■ ＜令和2年4月＞ PhD in Computer Science (英国)
		<ul style="list-style-type: none"> ・AIデザイン特論 ・インテリジェントシステム特論 ・機械学習特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	准教授	廣瀬 雄大 ■ ＜令和2年4月＞ Ph.D. in Engineering (英国)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・エマージング・テクノロジー特論 ・事業方向性設計特論 ・事業方向性設計演習 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
実専	准教授	細田 貴明 ■ ＜令和2年4月＞ 博士(社会科学)・情報システム学修士(専門職)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・ネットワーク事業設計特論 ・意思決定サイエンス特論 ・イノベーションサービス技術特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	村越 英樹 ■ ＜令和2年4月＞ 工学博士
		<ul style="list-style-type: none"> ・組込みシステム特論 ・ET(Embedded Technology)特別演習 ・システムモデリング特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	教授	吉田 敏 ■ ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・エマージング・イノベーション特論 ・製品開発組織特論 ・技術経営戦略特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
実専	准教授	内山 純 ■ ＜令和2年4月＞ 工学修士
		<ul style="list-style-type: none"> ・造形デザイン特別演習 ・プロダクトデザイン特論 ・工業デザイン材料特論 ・プロトタイプ工学特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	教授	中鉢 欣秀 ■ ＜令和2年4月＞ 博士(政策・メディア)
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術特論 ・情報アーキテクチャ特論3 ・コラボレイティブ開発特論 ・IT・CIO特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
実専	准教授	林 久志 ■ ＜令和2年4月＞ PhD in Computer Science (英国)
		<ul style="list-style-type: none"> ・AIデザイン特論 ・インテリジェントシステム特論 ・機械学習特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	准教授	廣瀬 雄大 ■ ＜令和2年4月＞ Ph.D. in Engineering (英国)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・エマージング・テクノロジー特論 ・事業方向性設計特論 ・事業方向性設計演習 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
実専	准教授	細田 貴明 ■ ＜令和2年4月＞ 博士(社会科学)・情報システム学修士(専門職)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・ネットワーク事業設計特論 ・意思決定サイエンス特論 ・イノベーションサービス技術特論 ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	Innella Giovanni ■■■■■ ＜令和2年4月＞ Doctorate in Design Theory and Critique (英国)
		・DESIGN[RE]THINKING ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	助教	大久保 友幸 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		・データサイエンス特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	助教	大崎 理乃 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 修士(工学)
		・ネットワーク特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	助教	河西 大介 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ デザイン修士
		・コミュニケーションデザイン特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	助教	黄 緒平 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 修士※(ソフトウェア情報学)
		・セキュアプログラミング特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	助教	佐々木 一晋 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 修士(工学)
		・事業設計工学概論※ ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
専	助教	柴田 淳司 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		・システムソフトウェア特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	Innella Giovanni ■■■■■ ＜令和2年4月＞ Doctorate in Design Theory and Critique (英国)
		・DESIGN[RE]THINKING ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
実専	助教	大久保 友幸 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		・データサイエンス特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	助教	大崎 理乃 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 修士(工学)
		・ネットワーク特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	助教	河西 大介 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ デザイン修士
		・コミュニケーションデザイン特論 ・イノベーションデザイン特別演習1 ・イノベーションデザイン特別演習2
専	助教	黄 緒平 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 修士※(ソフトウェア情報学)
		・セキュアプログラミング特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	助教	佐々木 一晋 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 修士(工学)
		・事業設計工学概論※ ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
専	助教	柴田 淳司 ■■■■■ ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		・システムソフトウェア特論 ・IT・CIO特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	田部井 賢一 [redacted] <令和2年4月> 博士(医学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
専	助教	張 晁逢 [redacted] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・Javaプログラミング技法 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	助教	坂野 遼平 [redacted] <令和2年4月> 博士(理学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・データベース特論 ・事業設計工学概論※ ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
兼任	講師	Antoine Bossard [redacted] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・Technical Writing in English
兼任	講師	稲垣 実 [redacted] <令和2年4月> 情報システム学修士(専門職)
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術者倫理
兼任	講師	海老澤 伸樹 [redacted] <令和2年4月> 工学士
		<ul style="list-style-type: none"> ・デザインマネジメント特論 ・コミュニケーションデザイン特論 ・デザイン表現実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	田部井 賢一 [redacted] <令和2年4月> 博士(医学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業設計工学概論※ ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
専	助教	張 晁逢 [redacted] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・Javaプログラミング技法 ・IT・CIO特論 ・情報システム学特別演習1 ・情報システム学特別演習2
専	助教	木下 修司 [redacted] <令和2年4月> 博士(理学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・データベース特論 ・事業設計工学概論※ ・事業設計工学特別演習1 ・事業設計工学特別演習2
兼任	講師	稲垣 実 [redacted] <令和2年4月> 情報システム学修士(専門職)
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術者倫理
兼任	講師	海老澤 伸樹 [redacted] <令和2年4月> 工学士
		<ul style="list-style-type: none"> ・デザインマネジメント特論 ・コミュニケーションデザイン特論 ・デザイン表現実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師(名誉教授)	國澤 好衛 [REDACTED] <令和2年4月> 工学士 ・価値デザイン特論 ・プロダクトデザイン特別演習
		小酒井 正和 [REDACTED] <令和2年4月> 修士※(経営学) ・情報ビジネス特別講義2
兼任	講師	近藤 嘉男 [REDACTED] <令和2年4月> 工学修士 ・プロトタイピング工学特論
		酒森 潔 [REDACTED] <令和2年4月> 理学士 ・プロジェクト管理特論2
兼任	講師	田中 多恵子 [REDACTED] <令和2年4月> 創造技術修士(専門職) ・データサイエンス特別演習
		戸沢 義夫 [REDACTED] <令和2年4月> 理学修士※ ・情報アーキテクチャ特論2
兼任	講師	永瀬 美穂 [REDACTED] <令和2年4月> 学士(文学) ・アジャイル開発手法特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師(名誉教授)	國澤 好衛 [REDACTED] <令和2年4月> 工学士 ・価値デザイン特論 ・プロダクトデザイン特別演習
		小酒井 正和 [REDACTED] <令和2年4月> 修士※(経営学) ・情報ビジネス特別講義2
兼任	講師	近藤 嘉男 [REDACTED] <令和2年4月> 工学修士 ・プロトタイピング工学特論
		酒森 潔 [REDACTED] <令和2年4月> 理学士 ・プロジェクト管理特論2
兼任	講師(名誉教授)	戸沢 義夫 [REDACTED] <令和2年4月> 理学修士※ ・情報アーキテクチャ特論2 ・情報システム特論2
		永瀬 美穂 [REDACTED] <令和2年4月> 学士(文学) ・アジャイル開発手法特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	成田 雅彦 [redacted] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム特論2 ・IoT開発特論 ・標準化と知財戦略
兼任	講師	伏見 靖 [redacted] <令和2年4月> 創造技術修士(専門職)
		<ul style="list-style-type: none"> ・技術倫理
兼任	講師	真鍋 敬士 [redacted] <令和2年4月> 修士※(システム情報工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・セキュアシステム管理運用特論
兼任	講師	村田 桂太 [redacted] <令和2年4月> 芸術学士
		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデザイン実習 ・プロダクトデザイン特別演習
兼任	講師	安川 要平 [redacted] <令和2年4月> 修士(情報理工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・フレームワーク開発特論
兼任	講師	山崎 泰宏 [redacted] <令和2年4月> 修士(コンピュータ・情報システム学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドインフラ構築特論
兼任	講師	淀川 高喜 [redacted] <令和2年4月> 博士(商学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・情報ビジネス特別講義3

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師 (名誉教授)	成田 雅彦 [redacted] <令和2年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・標準化と知財戦略
兼任	講師	伏見 靖 [redacted] <令和2年4月> 創造技術修士(専門職)
		<ul style="list-style-type: none"> ・技術倫理
兼任	講師	真鍋 敬士 [redacted] <令和2年4月> 修士※(システム情報工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・セキュアシステム管理運用特論
兼任	講師	村田 桂太 [redacted] <令和2年4月> 芸術学士
		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデザイン実習 ・プロダクトデザイン特別演習
兼任	講師	安川 要平 [redacted] <令和2年4月> 修士(情報理工学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・フレームワーク開発特論
兼任	講師	山崎 泰宏 [redacted] <令和2年4月> 修士(コンピュータ・情報システム学)
		<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドインフラ構築特論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	六川 浩明 [] <令和2年4月> 法学士
		・情報ビジネス特別講義1

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	六川 浩明 [] <令和2年4月> 法学士
		・情報ビジネス特別講義1
兼任	講師	浅野 浩美 [] <令和2年4月> 博士(システムズ・マネジメント)・修士(経営学)
		・データサイエンス特別演習
兼任	講師	和泉 秀明 [] <令和2年4月> 社会学士・学士(造形)
		・デザイン表現実習 ・造形デザイン特別演習
兼任	講師	小畑 崇弘 [] <令和2年4月> 経営学修士
		・データサイエンス特別演習
兼任	講師	亀井 省吾 [] <令和2年4月> 博士(学術)
		・情報システム特論2
兼任	講師	川名 周 [] <令和2年4月> 文学士
		・情報ビジネス特別講義3
兼任	講師	宮澤 和弘 [] <令和2年4月> Master of Science in Electrical Engineering (米国)・ファイナンス修士(専門職)・博士(経営学)
		・データサイエンス特別演習

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。

- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
- ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・中鉢欣秀准教授について、教授に昇任。
- ・坂野遼平助教就任辞退により、木下修司助教に変更。
- ・Antoine Bossard講師退任により、担当予定科目を嶋津恵子教授が担当。
- ・田中多恵子講師退任により、浅野浩美講師・小畑崇弘講師・宮津和弘講師に変更。
- ・成田雅彦講師について、講師（名誉教授）に変更。
- ・淀川高喜講師退任により、川名周講師に変更。
- ・和泉秀明講師・亀井省吾講師を採用。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 者教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数
14 名	10 名	6 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
15	5	0	10	30	0	16	4	0	10	30	0
(15)	(5)	(0)	(10)	(30)	(0)						
研究者教員数			実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/	研究者教員数			実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/
19			11	0		19			11	0	
(19)			(11)	(0)		[19]			[11]	[0]	
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
16	4	0	10	30	0	16	4	0	10	30	0
[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究者教員数			実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/	研究者教員数			実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/
19			11	0		19			11	0	
[0]			[0]	[0]		[0]			[0]	[0]	

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、「教員審査を要する数」であり、

完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	坂野 遼平	R1.5	選択	データベース特論	①	R1.5 一身上の都合のため就任辞退、専任教員・木下修司助教を補充（2）			
				選択	事業設計工学概論	①				
				必修	事業設計工学特別演習1	①				
				必修	事業設計工学特別演習2	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{30} = \boxed{3.33} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 坂野遼平助教が一身上の都合のため就任辞退したが、木下修司助教を補充しているため、設置計画に支障はなく、学生に不利益はない。なお、学生に対しては、シラバス及び時間割等の配布により周知している。(2)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
該当なし			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<産業技術研究科 産業技術専攻（専門職学位課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会を設置する。設置の主たる目的は、授業の方法をはじめとした教育活動のさらなる改善を図るため、幅広い教育支援を展開するとともに、活動の効果を検証し、時宜にかなった企画の充実に努めることである。さらに、委員会は設置していないが、制度的にSD（スタッフ・ディベロップメント）を実施している。職員の資質向上のために、平成21年3月に、法人職員の戦略的人材育成の指針として『人材育成プログラム～スタッフ・ディベロップメントの体系化と実践的展開～』を策定し、継続性のある運用を行なっている。

【資料1】東京都立産業技術大学院大学FD委員会規程

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

FD委員会は、産業技術大学院大学の教育機関とオープンインスティテュートの機能の充実と、教員の教育能力の向上を図るために全学的に取り組むことを目的として設置されている（<https://aiit.ac.jp/education/fd/activities/>）。FD委員会は、本学の各々の専攻（コース）の教員のうち学長から選任された各1名ならびに本学事務局の教務学生入試係長および係員1名以上より構成され、毎月1回開催されている。

c 委員会の審議事項等

FD委員会の審議事項は、主として次の通りである。

- 年間に2回開催されるFDフォーラムの企画、講師の選定、開催計画、および実施に関すること。
- 各クォータで実施される年間4回の学生による授業評価アンケートの周知、依頼に関すること。
- 各クォータで実施される学生による授業評価アンケートの結果を踏まえた教員によるアクションプラン作成依頼および取りまとめに関すること。
- 学生による授業評価アンケートの検討結果に基づく本学ベストプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの選定。
- 上記に関する改善計画および立案に関すること。

SD委員会は設置していないが、制度として継続性のあるSDを実施している。

② 実施状況

a 実施内容

- (ア) FDフォーラムの実施
- (イ) PBL研究会の実施
- (ウ) 研修会やシンポジウム等の実施
- (エ) 教員相互の授業の見学
- (オ) 新任教員のための研修会
- (カ) 職員・教員研修（SD: Staff Development）

b 実施方法

上記(ア)～(カ)のそれぞれの実施方法は次のとおり対応する。

(ア)教員の授業内容・方法の改善のための企画として、定期的にFDフォーラムを開催している。FDフォーラムでは外部有識者による講演や参加者の討論会等を実施している。

(イ)合宿形式による講義、PBL、学生の諸問題に関する議論を行っている。

(ウ)本学高度専門職人材教育研究センターが実施する研修会やシンポジウムを実施している。本学が育成する人材像について、教員間の認識を一致させるためのワークショップを定期的に開催し、教員間の連携を図る。優れた教育実践例について教員が発表して討論できるようにし、教員のモラル向上に努める。

(エ)本学のPBLを除く全ての授業は原則として録画されており、全教員が視聴できる環境にある。教員は他の教員の授業を見学でき、授業実施方法を参考できる。

(オ)本学高度専門職人材教育研究センターが年に1～2回実施している。対象は新任教員に対して、本学のカリキュラムポリシー、授業設計、効果的な授業実施方法など、概ね計6時間以上の研修会として実施している。

(カ)法人の「職員研修実施計画」に基づき実施する研修「SDサマープログラム」や、公立大学協会が主催する「公立大学職員研修協議会プログラム」に本学職員が参加し、高等教育機関の特性や近年における環境変化、法制度、中央教育審議会答申等、高等教育施策の動向や、公立大学における教職協働の取組等を学んだ。また、法人職員として必要な基礎力、知識等の学習を促すために実施される「法人職員基礎知識理解度測定」に向けて、毎年8月頃に法人職員として修得すべき基礎知識を体系化した「法人職員ハンドブック」を活用したOJT、職場内研修を実施した。さらに、教職協働を推進するため、学長から職員に対する講演「学長から産技大職員への期待～産技大の特色ある取組を踏まえて～」を実施した。さらに、各教員から専攻の特色、PBLのテーマ、情報セキュリティ・プロジェクトマネジメントの講話を教職員全員に実施し、お互いの問題共有を図っている。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

上記(ア)～(カ)のそれぞれの開催状況は次のとおりである。

(ア)FDフォーラムは年に2回実施され、直近では、令和元年8月20日、令和2年2月20日に実施された。原則全教員が参加を必須とされる。やむを得なく欠席した場合、ビデオで録画されたFDフォーラムのビデオコンテンツを視聴する。

【資料2】第26回FDフォーラム次第

【資料3】第27回FDフォーラム次第

(イ)PBL研究会は、年1回2日間の合宿形式で実施され、直近では、令和元年9月2～3日に実施された原則全教員参加を必須とされている。

【資料4】令和元年度PBL研究会議題

(ウ)FDフォーラムとは別に研修会が実施され、直近では、平成31年2月22日のFDフォーラムの終了後に希望者を対象として実施された。ベストプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーとして表彰を受けた教員によるアクティブラーニングの実践に関する報告が行われた。なお、令和2年2月27日に実施を予定していたシンポジウムは、新型コロナウイルス感染症対策方針に従い実施を取りやめた。

(エ)PBLを除く全授業の録画が実施された。教員が必要とする際に、直ちにコンテンツが提供されることができ

る。

(オ)年に1～2回実施しており、令和元年度においては春季と秋季、直近では、令和2年4月28日に実施され、実施日までに採用された新任教員に対して過去の研究教育歴とは無関係に受講を科している。

【資料5】令和2年度第1回新任教員研修開催概要

(カ)至近では、平成30年度新規に教職員合同で、研究科再編に纏わる議題でOST(Open Space Technology)形式でのグループワークを平成31年1月に開催し、教職員間の意識合わせを行い、適切かつ効果的な大学運営を行うための活動とした。また、令和元年度、FDにおいて職員の参加を求め、教職員相互の意見交換を通して、適切かつ効果的な大学運営を行うための活動とした。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

上記、実施結果を踏まえた授業改善への取り組みとして、FDフォーラムについては、事前に準備された調査用紙に記入することで、教員が授業改善に対する意識を高めることができるようにしている。また、FDフォーラムでの資料や発言は、本学のFD活動をまとめた「FDレポート」を年2回発行し公表している。FDレポートは、本学でのFDに関する取組が効果的に関連組織に波及することを意図し、本学Webサイトに公開している

(<https://aiit.ac.jp/education/fd/activities/report/>)。FDレポートの内容は以下となる。

- ・ FD 活動の概要
- ・ 「学生による授業評価」結果の概要
- ・ FDフォーラム開催の概要
- ・ 教員各自の授業改善に関する取り組みについて(アクションプラン)等

※アクションプラン・・・学生に対して授業評価アンケートを実施し、その結果に基づき授業を改善するための計画を作成したもの

PBL研究会においては、原則全教員がプレゼンテーションを行い、討論に参加し、討論を通じて、主としてPBLに関する改善を試みている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生による授業評価アンケートは、開講される全ての科目で実施されている。各クォーターの後半に学生に受講中の授業に対するアンケート回答について周知される。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートの結果は、全学的に公開し、学生の学習意欲の向上に資するとともに、他の教員間の授業内容の連携を深めるためにも利用する。さらに、年2回発行のFDレポートにおいて、授業アンケート結果を踏まえて教員各自が授業改善を目的として作成したアクションプラン(学生に対して授業評価アンケートを実施し、その結果に基づき授業を改善するための計画を作成したもの)が掲載されており、学外に対しても広くウェブを通じて公開されている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。)

併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

本学では平成18年度の開学以来、産業界のニーズを把握し、教育内容に反映させること、また産業界と連携し効果的な教育研究を実践するために、本学が人材育成を行う産業分野の専門家、企業の経営者等の学外委員を中心メンバーとする運営諮問会議及びその実務部会である実務担当者会議を設置している。今般の専門職大学院設置基準改正に伴い、令和元年度からは運営諮問会議に教育課程連携協議会の機能を持たせ、オブザーバーであった本学教職員を正委員として加えて運営を継続している。

参考URL (委員一覧含む) : <https://ait.ac.jp/about/council/>

【資料6】東京都立産業技術大学院大学学則(第7条第3項に係る部分の抜粋)

【資料7】東京都立産業技術大学院大学運営諮問会議設置要綱

【資料8】東京都立産業技術大学院大学運営諮問会議実務担当者会議設置要綱

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

運営諮問会議 : 年間2回程度

実務担当者会議 : 年間3回程度

(参考) 令和元年度開催実績

- ・ 令和元年6月19日 第27回運営諮問会議
- ・ 令和元年9月30日 第31回実務担当者会議
- ・ 令和元年11月6日 第32回実務担当者会議
- ・ 令和元年12月5日 第33回実務担当者会議
- ・ 令和2年3月13日 第28回運営諮問会議

c 委員会の審議事項等

- (1) 産業界の実情を背景とした大学教育カリキュラムへの評価と改善に関する事
- (2) 産学協同カリキュラム開発、産学協同研究等に関する評価と戦略目標に関する事
- (3) オープンインスティテュートの活用に関する事
- (4) 大学運営全般に関する事
- (5) 学生に対する支援策
- (6) その他、会議の目的に沿う事項

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

令和元年度運営諮問会議諮問 :

- ・ 研究科再編後の教育研究における産業界との連携のあり方について
- ・ 今後の産技大のグローバル活動のあり方について

【資料9】令和元年度運営諮問会議諮問

【資料10】令和元年度運営諮問会議答申

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・ グローバル人材の定義と評価軸策定
- ・ グローバル活動を通じた人材の育成
- ・ グローバル活動とした東京の魅力の発信

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・ 新専攻のカリキュラム (教育活動) における連携の検討
- ・ 事業設計工学コースに関してアクセラレータプログラムや事業化支援コンテスト等の連携の検討
- ・ みなし専任などの参加の検討
- ・ PBLにおける連携の検討

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(1) 産業技術研究科産業技術専攻の設置の趣旨・目的

産業技術専攻はITとデザインエンジニアリングの連携に基づいた新たな産業の創出により、起業、創業、事業承継に資する高度専門職業人の育成を総合的に実施することを目的に設置された。

(2) 令和2年度の設置の趣旨・目的の達成状況

(ア) 教員組織とカリキュラム

届出時と同じ授業科目を用意し、教育組織を編成して、シラバスを整備した。

【資料11】令和2年度東京都立産業技術大学院大学シラバス

【資料12】令和2年度東京都立産業技術大学院大学履修の手引き

(イ) 専門知識を有する学生の確保

アドミッションポリシーを策定し、令和2年度入試では5期に分けて選抜を実施した。また多様な選抜として、筆記試験及び面接・口頭試験による一般入試、プレゼンテーション試験による社会人対象特別入試の他、単位バンク登録生向け入試、企業推薦入試やキャリア再開支援入試、高専専攻科修了予定者を対象とした推薦入試なども実施した。これらの取組により多様な専門知識を有する学生を確保した。

(ウ) 実践型教育の推進

現場で必要とされる知識、スキルを取得させるために、各専門領域科目ごとに演習科目を設置し、実践型教育を実施した。また3つのコースごとに実務に必要とされる業務遂行能力（コンピテンシー）を分析した。それに基づくPBL教育を令和3年度より実施予定である。

(エ) 継続的な教育の質の向上

外部識者を招いてFDフォーラムを開催したほか、教員が相互にすべての講義ビデオを参照できるシステムを構築している。

(オ) 産学公の連携

産業界のニーズを把握し、教育内容に反映させるとともに、産学連携の推進や効果的な教育研究を実践するために、産業技術専攻に係わる産業界の専門家や経営者等の学外委員を中心メンバーとする運営諮問会議を設置している。ここでは、産業界からみた本学カリキュラムの妥当性、PBLテーマの共同開発及び地域自治体や企業等との連携による社会貢献活動など本学教育体制に関する広範な課題について提言を得ている。これらの提言を基に産業界のニーズにあった教育研究を実現し、大学運営に活かしている。

令和2年3月には研究科再編後の教育研究における産業界との連携の在り方やグローバル活動の在り方について答申を得た。この答申を踏まえ、令和4年度のカリキュラム改訂に向け準備を進めている。

(3) 総合評価・所見

令和2年度は、上記の通り、設置の趣旨・目的に即した体制作りを順調に実施している。令和3年度以降も、大学設置の趣旨・目的を達成するために、一層の充実した取組みを進めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和2年9月公表（予定）

b 公表方法

・東京都公立大学法人で年度計画として定めた事項の実績及び計画の達成状況について令和元年度業務実績報告書を作成し、法人のホームページに公開する。

③ 認証評価を受ける計画

本学は専門職大学院であるため、学校教育法109条に従い、7年毎の機関別認証評価と5年毎の分野別認証評価を受審してきた。すべて適合との評価を受けており、その結果を公表している。次回の機関別認証評価は令和8年度に受審する。

分野別認証評価については日本技術者教育認定機構（JABEE）により、2年次が在籍する情報アーキテクチャ専攻（旧専攻）として令和2年度に受審する。新専攻である産業技術専攻としては、令和4年度に受審する予定である。

以上①～③の記載内容については、本学自己点検・評価委員会にて確認している。

【資料13】令和2年度第2回東京都立産業技術大学院大学自己点検・評価委員会議事要旨

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。